



電気を使うときのCO₂排出量を削減するため、エネルギー効率の良い機器の導入・普及に取り組んでいます。

温暖化防止対策として、電気自動車の導入・普及を積極的にすすめています。

低炭素社会の実現には電化社会の推進が不可欠であり、環境性能にすぐれた電気自動車(EV)の普及に向けた取組みが重要になると考えています。電気自動車はガソリン車と比較してCO₂排出量が約4分の1であり、発電時を除けば走行時にCO₂を



●関西電力が導入した電気自動車

排出しません。電力業界は、その導入・普及に積極的に取り組んでおり、電気自動車とプラグインハイブリッド車(PHV)を合わせ、10社合計で、2009年度には約600台、2020年度までには約1万台を業務用車両として導入する計画です。これは、電力各社が現在使用している業務用車両の約半分に相当します。関西電力では、2009年度からの3年間で約200台、2020年度までに1,500台を目標に導入する予定です。これにより業務用車両の使用にともなうCO₂排出量を約2割低減できます。電気自動車の導入にあわせて、充電設備などのインフラ整備にも取り組み、さらに電気自動車の導入促進・普及拡大をすすめていきます。

ヒートポンプ技術を利用した高効率機器の普及に努めています。



●新登場したコンパクト エコキュート

社会全体でもっとエネルギーが効率よく利用されるようになれば、CO₂削減に大きな効果が得られます。関西電力では電気を使うときのCO₂排出量削減のため、ヒートポンプ技術を利用した省エネ給湯機エコキュートなどの高効率機器の普及に努め、社会全体でのCO₂排出量削減に取り組んでいます。

さまざまな情報発信を通して環境にやさしい生活を応援します。

関西電力では、お客さまのご家庭のCO₂排出量が簡単にわかる環境家計簿「エコライフチェック」や、エコな生活を応援する豆知識をホームページに掲載するなど、環境にやさしい社会づくりのために情報発信をしています。

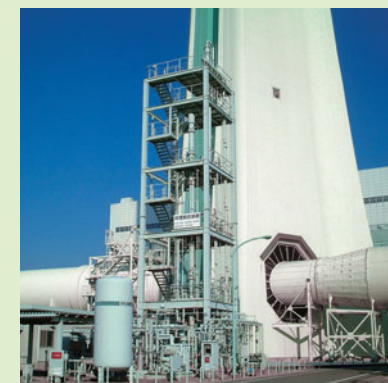


●環境家計簿のサイト

CO₂排出量削減のための革新的な技術の開発や、国境を越えた温暖化防止活動を展開しています。

発電時のCO₂を分離・回収する独自技術の開発をすすめています。

関西電力は1990年に、今後、CO₂の排出量削減が必要になるだろうとの判断から、火力発電所の排ガスからCO₂を分離・回収する技術の開発に着手しました。三菱重工業(株)とチームを組み、南港発電所に実験プラントを建設。CO₂を90%以上回収できるCO₂吸収液「KS-1」を開発しました。KS-1はそのすぐれた性質から、「世界最高のCO₂吸収液」という高い評価を得ています。今、KS-1が採用されているのは、海外の肥料工場などCO₂の利用を目的とする工場がほとんどですが、いずれは火力発電所などの排ガス中のCO₂を直接回収し、地球温暖化防止に役立てることをめざしています。



●南港発電所排煙脱炭プラント

海外での活動として、温暖化に苦しむツバル国に太陽光発電設備を設置しました。

ツバル国は9つのサンゴ礁の島からなる小さな島国です。海拔が平均約2メートルしかなく、温暖化などの影響で海面が上昇して、このままでは海に沈むといわれています。関西電力は「先進国にCO₂排出抑制を求めるだけでなく、自ら温暖化防止に貢献したい」というツバル国の思いに応え、首都ナフチのサッカー場に、出力40kWの太陽光発電設備を設置。同時に建設と運転のノウハウをツバル電力公社に伝えました。規模もCO₂削減量もわずかですが、世界に向けた温暖化防止のメッセージになればと願っています。



●南太平洋の島国ツバル



●サッカー場に設置した太陽光発電設備